



社会課題の解決や多様な価値の創出を目的に、地域企業が連携し、新たな社会実験に挑戦する「京都・地域企業 未来の祭典」

京都・地域企業 未来の祭典

京都に働くいろいろな人々の知恵やアイデアをひらき、領域をこえる好奇心と共創の精神がまじわる世界文化自由都市^{*1}としての未来へ向けたさまざまな実験と交流に参加できる舞台があるとしたら…

わたしたちは今、まちに必要だと互いを感じる
仕組みを「自分たちでつくりませんか」と呼びかけ、
できることから京都・地域企業 未来の祭典として
まずは、やってみることにしました。

あなたも、普段とは異なる視点で、
未来の祭典らしい試みに参加してみませんか。

運営 | 京都・地域企業 未来の祭典をやってみよう会 事務局

*1 「世界文化自由都市宣言」とは

(2019年の40周年記念事業より抜粋)



京都市は昭和53年10月15日に、市民の代表（京都市会）の賛同を得て、京都が目指す都市の理想を「世界文化自由都市」として宣言しました。

平安時代から海外の人・技術・文化を取り入れ、明治時代には人づくりと文化で道をひらき産業を発展させた。いずれも海外の文化を尊重しながら独自の発展を遂げてきた京都。以降、永久に新しい文化都市であるために、みんなで力を合わせて取り組んできたからこそ、宣言の理念は幅広く実現しています。“都市は、理想を必要とする”

*2 京都・地域企業宣言

(2018年(平成30年)9月10日)抜粋



国内外から人や物が集い、伝統と革新が融合しながら新たな文化を創造し、千年を超えて都市の機能が継続してきた京都。私たちの先人は、経済的価値と共に文化的価値を大切にし、衣・食・住をはじめとする生活文化、地域が受け継いできた祭典などに彩られる市民の暮らしを支えてきた。そして、伝統産業から先端産業、農林業、観光や情報をはじめとするサービス業などあらゆる産業やその担い手を育み、社や学術・研究機関との協働によって数々のイノベーションを生み出してきた。

今こそ次の千年に向けた出発点であり、共に社業の発展を通じて地域に貢献し、しなやかな強さで京都の未来を切り拓く力、すなわち「未来力」を発揮するときである。京都に育まれてきた精神文化を大切に、あらゆる連携によって地域を支え、京都を拠点に日本の活力源となり、共生社会の担い手として、世界の人の笑顔あふれる未来を創造していく。

京都・地域企業 未来の祭典2024

期間：2023年8月1日～11月30日

社会実験による連携

121

事業者

(一社)リリース / 京都市 / (合)KYOTOVEGAN / (株)全笑 / 京都芸術センター universityofkyoto/bsz / (株)アグティ / (株)夢びと / inote+P | (株)五力 / (有)鈴木モーターズ | (株)よい根 / (株)SOU / (一社)リリース / 京都市 | (株) バランステック京都 / (有) ESPA | OHARA FARMY / (株) ジェイ・エス・ピー / InterMedia (合) / Tom Sawyer有志 | (有) 鈴木モーターズ / (一社) 福岡県中小企業家同友会 女性部委員会 | (株) 夢びと / (株) アグティ | 西陣委酒 / エビパデ京ほっふ / WOW!! | (株) 夢びと / (一社) パースベクティブ | (有) グリッド / 京都 高屋書店 SHARE LOUNGE / (株) Qエース / KYO-CCE Lab / 京都をつなげる30人 / KCAN西クリエーター協会 / PerSonA E/L / 京都市 / 京都デニム | 本でつなぐ人とまち / (株) からの伴走者 / 余浪倉 / 正親まちの本箱 オリーブ文庫 / 開風社 / きらくやえほん / これれば書店 / みんなの図書館knocks! horikawa / 洛西紙工 (株) | 発酵食堂カモシカ / GOOD NATURE STATION | (株) カスタネット / (株) 現代の寺子屋 / (公財) 京都市環境保全活動推進協会 / クリーンスペース (株) / NPO法人伏見観光協会 | 京都市 / (公財) 京都市芸術文化協会 / (株) ヒューマンフォアラム / 航海簿明 | (株) 五力 / (有) 鈴木モーターズ | (株) よい根 / (株) ヒューマンフォアラム / エシカルワールドロスライアンス / 焼製工房いちなん | (株) 夢びと / (株) アグティ | (株) カスタネット / (株) 現代の寺子屋 / (公財) 京都市環境保全活動推進協会 / クリーンスペース (株) / NPO法人伏見観光協会 | (株) ジェムセッションズ / (株) 西浅 | (株) JTB京都支店 / (株) 博報堂 | inote+P / (株) マモノ | コミュニティバンク・京信 / (株) ジェイ・エス・ピー / 安田産業 (株) | 洛西紙工業 (株) / (有) 上田製作所 / (株) はじめ商会 / (株) もり / 佛現寺 / うなぎのお富 | (株) 夢びと / (株) アグティ | (株) カスタネット / (株) 現代の寺子屋 / (公財) 京都市環境保全活動推進協会 / クリーンスペース (株) / NPO法人伏見観光協会 | 梅小路ホテル京都 / Small Impact LLC / (合) 京都Visitors | ハナタタパネル / U35-KYOTO | (一社) リリース / 京都市 / きょうとSDGsネットワーク / (株) よい根 / (合) KYOTOVEGAN / (株) であいうわ / (株) 夢びと / (株) JTB京都支店 | (株) YOSCA / (株) 夢びと / (一社) リリース | タカラサライ コミュニケーションズ (株) (京都ふぉんとプロジェクト) / 京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」 |

* 社会実験の開催順

社会実験初めましての方にも活動が広がりました



勉強会やギャザリングの様子

相談件数や交流の回数を増やしながらか、
中身の濃い実験と連携の挑戦を育みました。

社会実験の実施に向けた、プロジェクトの相談を行える「地域企業応援会」。昨年からは始まった出張開催も継続し、開催数を倍に増やし展開しました。相談内容のジャンルも様々で、まちのあらゆる課題に対し、共創的アプローチで取り組む地域企業の姿が印象的でした。社会実験のエントリー者を中心とした交流イベント「ギャザリング」では、お互いの取り組みを知る機会だけでなく、他の社会実験への参加や協力などの、取り組みに深みが生まれる機会に発展する場面もありました。また、未来の祭典を初めて聞くビギナーの方の参加も多く、毎回終了後も対話が続き終わりが見えないほど、交流を深める機会となりました。

応援会開催数：47件（昨年：24件）
出張応援会開催数：12件
ギャザリング：4回

社会実験の灯火はあらゆる垣根を超えた繋がりに



第1回、第2回勉強会の様子

都市を超えた社会実験の共有。様々なセクター
が一堂に集い、学び、社会実験に繋がりました。

毎年開催される「京都・地域企業 勉強会」は、来場者・ゲスト・会場もカラフルな1年でした。第1回勉強会では、本年度のオリエンテーションも兼ねて開催。昨年度の社会実験の事例紹介を皮切りに、参加者間で今年の社会実験について検討・相談が自然と始まりました。またゲストとして中嶋愛氏（同志社大学 客員教授）も参加いただき、「コミュニティと企業の関係性」など、社会実験についての助言もいただきました。第2回は、社会実験の終盤の開催として、これまでの社会実験の結果を共有しました。Community Based Campaigns Forum として開催された「産学会議」の主催の一人でもある古川 理沙氏（(一財)私立新留小学校設立準備財団 共同代表）も駆けつけていただき、社会実験から生まれた知恵のシェアが都市間で行われ、新たな共創の兆しが生まれる日となりました。

第1回勉強会：京都リサーチパーク / GOCONC
第2回勉強会*：堀川御池ギャラリー
*「きょうとSDGsネットワーク」との合同企画として開催しました。

まちや社会課題解決に資する地域企業の事業や エコシステム構築方法に注目が集まっています



京都市内における実証事業の様子

中小企業庁「ローカルゼブラ」事業が物語る、数値化
しにくい社会価値を創出する企業連携に変化の波が。

令和6年度は自社や他業種連携が育む「社会的インパクト(成果や価値)」を可視化し、まちの課題解決を促す事業を後押しすべく中小企業庁・経済産業省による「地域の社会課題解決企業支援のためのエコシステム構築実証事業(地域実証事業)」が行われ、全国から20事業が採択されました。京都市内からは3社選出され、“地方都市・農村地域の価値、里山と地域の再生を目指す”動きや、“あつまる地域づくりをコンセプトに地域間の交流やビジネス連携を促す”事業のほか、“文化を基軸とした経済の好循環システムを後押し”することを目的に、自然や文化資本を増やす寄附付き商品・サービスが巡る京都を目指したチャレンジが約半年実施されました。これまで地域企業による数値化しにくい取り組みの社会価値の言語化や、規模の大小を超えた異なる業態の事業者間の協働を“どんな指標により評価/共有していけるか?”という議論は長年ありましたが、財務諸表に載らない「社会的インパクト創出事業」をいかに地域内外で金融機関も巻き込んだ後押しにつなげるか…いま国をあげて支援の風向きが変わろうとしています。

※今年度採択されたローカルゼブラ企業及び組織は全国
で20団体（うち京都から採択事業者は3社）

京都・地域企業 未来の祭典2024 ～ KYOTO ECONOMIC CULTURE FESTIVAL ～

公益的な事業者連携による 社会実験の数

30件

2024年度

103件

2022年度～2024年度

地域企業が、企業、行政、団体等と連携し、社会課題の解決や新たな価値の創出に取り組むことで、地域企業や地域の発展につながっています。2022年度よりスタートした社会実験は3年間で100件を超えるまでに至りました。多様なセクターが捉えた課題とそのアプローチの数々は、知恵と工夫に溢れた取り組み内容ばかりです。社会実験の広がりだけでなく、そのインパクトをどのように捉え次に活かすか、更なる発展に向けた議論も進んできました。



地域企業が主体となり、まちに必要な仕組みを「自分たちでつくる」運営方法や資金の捻出と持続可能な祭典の在り方を探究中

-2021年度-
“地域企業による社会実験の祭り”のアイデア誕生。
-2022年度-
「京都・地域企業 未来の祭典をやってみよう会」発足。第1回京都・地域企業未来の祭典開催。
-2023年度-
第2回京都・地域企業未来の祭典開催。地域企業が事務局業務を分担し運営を実施。
-2024年度-
第3回京都・地域企業未来の祭典開催。新たな活動資金の捻出の検討や社会実験のインパクト評価の検討など、活動の継続と取り組みの発展を願う議論を重ねる。

社会実験のタイトル

- 第1回 京都・地域企業勉強会（社会実験に向けたオリエンテーション）
- 地域のおしごと博物館京都_ワンデースポット開催IN有限会社鈴木モータース
- 社会実験エントリー者同士のGatheringに参加してみよう！
- エコロジーウォーキングで足元からキレイに！！
- KYOTO URBAN FARMING：明日の自分が育つ場所
- 出張ノウハウ共有「地域のお仕事博物館」～まちづくりで事業繁栄～
- 『祭コインで住める部屋』～新しいお金の巡りを考えてみる～
- みんなで！エビバデ京エール
- 50年前のニュータウン開発から未来のまちづくりを考えてみる
- CR8RZ NiTE KYOTO
- 西陣：本でつながる人とまちスタンプラリー
- 秋の醸す市祭り「日本3大発酵の継承」
- 小中学校向け課題解決型学習 初めてのPBL伏見と丹後で環境・観光を学ぶDay 1
- KYOTO MATERIAL YARD(京都素材倉庫)
～「アート×循環×野外シネマ」のコラボレーションプロジェクト～
- 15.地域のおしごと博物館京都
16. 動物園のエサ寄付と障害福祉を目指した「動物クッキー」。エサ提供活動に寄付を開始！
17. 『ソーシャルビジネスとお金、時間の関係性』～新しいお金の巡りを考えてみる～
18. 小中学校向け課題解決型学習 初めてのPBL伏見と丹後で環境・観光を学ぶDay2
19. Jam Sessionz ナイト～価値交換とは何か？ 損得勘定とは何か？～
20. 京都のゴミ問題解決を目指す、「観光ダストバッグ」の社会実装の試み
21. ママの夢 京都サミット2024
22. 地域内循環 古着回収/再利用のインフラ構築プロジェクト RELEASE⇔CATCH（リリースキャッチ）
23. アトツギ縁日
24. 『新しい働き方×京都祭コイン』～新しいお金の巡りを考えてみる～
25. 小中学校向け課題解決型学習 初めてのPBL伏見と丹後で環境・観光を学ぶDay 3
26. 京都銭湯コンシェルジュによる京都の銭湯文化体験
27. 地域企業と大学生のちょうどいい関わり方を考える / Talk Session & Workshop
28. 第2回 京都・地域企業勉強会（未来の祭典による学びや成果をシェア）
29. E9 Next Generation Foundation
30. 共創アート「京都ふおんと」を使って、工作をしてみよう！



▲WEBサイトはこちら▲

本でつなぐ人とまち

実験の場

9月20日（金）～11月20日（水）

@京都市上京区西陣エリアにある、書店や私設図書館（まちライブラリー）

共創

本でつなぐ人とまち／（株）くらしの伴走者／余波舎／正親まちの本箱 オリーブ文庫／開風社／きらくやえほん／こもれび書店／みんなの図書館 knocks! horikawa／洛西紙工（株）、他



京都市の社会課題

京都西陣エリアには、書店やまちライブラリー（私設図書館）が複数あります。本を起点にした世代や分野を超えた交流、人と人とのつながりづくり、人と本の出会いづくりを目的としたアソシエーションです。生活文化の継承、安心安全、地域コミュニティの活性化に貢献を目指します。

社会実験の内容

「西陣：本でつなぐ人とまちスタンプラリー」は、西陣のまちを巡りながら6ヶ所のスタンプポイントを回るイベントです。新たな人とまちのつながりやまちづくりが生まれることを願い、企画しました。

主なアウトプット/アウトカム

メディアに取り上げていただいたり、図書館のイベントでのご紹介で集客につながりました。

メディアに多数掲載されました



京都新聞社 / ラジオミックスキョウト / にし ZINE / カミング / 大谷大学ゼミ発表等



西陣 本でつなぐ人とまちスタンプラリー

2024年
9月20日 ▶
11月20日

このイベントは、京都市上京区内の「西陣」と呼ばれるエリアを中心とした、書店・私設図書館を巡るスタンプラリーです。

この地域は百年、くらしにまつ文化と絆の中で、書店のまちづくりが行われてきました。スタンプラリーをきっかけに、新たな人とまちのつながりやまちづくりが生まれることを願っています。

本でつなぐ人とまち。ぜひお楽しみください。

主催：本でつなぐ人とまち 市民活動と商店・企業の協働・共創による、本を介したまちづくりを考える市民活動団体です。スタンプラリー参加商店・団体及びくらしの伴走者で構成されています。

この事業は、令和4年度上京区まちづくり推進支援事業（主催：上京区）の交付金事業です。

西陣 本でつなぐ人とまち スタンプポイント

<p>1 余波舎 / NAGORO BOOKS 大宮通東山町1-10-10</p> <p>2009年1月にオープンした新築と古書あふかう書店です。美観・人文・アート・音楽・書籍の分野で多岐にわたるジャンルで活動している。各分野のイベントや講座も開催しています。イベントや講座も開催しています。</p> <p>QRコード: [QR]</p>	<p>2 正親まちの本箱 オリーブ文庫 北町通東山町1-10-10</p> <p>西陣に属するまちを大切にしたい。新しい人にも受け入れたい。まちの未来のために、自分たちがやりたい。正親・一徳の人だけが活動している。まちづくりの活動も、正親・一徳の人たちも活動しています。ぜひお楽しみください。お気軽にお問い合わせください。</p> <p>QRコード: [QR]</p>	<p>3 開風社 待賢ブックセンター 北町通東山町1-10-10</p> <p>あたらしく新しいまちが生まれています。隣り合うまちが、時代を超えてつながり、自分たちがやりたい。正親・一徳の人だけが活動している。まちづくりの活動も、正親・一徳の人たちも活動しています。ぜひお楽しみください。お気軽にお問い合わせください。</p> <p>QRコード: [QR]</p>
<p>4 きらくやえほん 大宮通東山町1-10-10</p> <p>2023年7月開業。毎月大人気なイベントを開催。子どもたちとの交流の場としても活用しています。お楽しみください。</p> <p>QRコード: [QR]</p>	<p>5 こもれび書店 大宮通東山町1-10-10</p> <p>開業から10年。毎月大人気なイベントを開催。子どもたちとの交流の場としても活用しています。お楽しみください。</p> <p>QRコード: [QR]</p>	<p>6 みんなの図書館 knocks! horikawa 大宮通東山町1-10-10</p> <p>開業から10年。毎月大人気なイベントを開催。子どもたちとの交流の場としても活用しています。お楽しみください。</p> <p>QRコード: [QR]</p>

スタンプラリーでの出会いでイベントが開催に

場所：きらくやえほん

英華 / Haruka
イラスト原画展

11:00-17:00
大宮通東山町1-10-10

どんな価値を発見できたか？

- これまでと異なる客層の人に来てもらえるようになった。
- 店主と今までにないコミュニケーションが生まれ継続的な関係性が生まれた
- 存在を知っているだけだったが一緒に企画するように
- 西陣は面白い！！

代表者から一言

さまざまなセクターの人と一緒に協働する意味を感じて参加しました。

スタンプラリーに掲載した書店の方々は、お互いの存在を知っていたものの、一緒に何かを作り上げる機会はありませんでした。今回のスタンプラリーを通してスポット同士のつながりができ、そこに訪れる人の回遊や交流につながりました。協働をする上では、共有の目的を共有すること、小さくやってみることが大切だとわかりました。次は地域の企業や店舗と一緒にスタンプラリー企画を作り上げたい。

國定若菜
本でつなぐ人とまち

(株) 夢びと

実験の場

9/9 (月)
10/10 (木)・11/7 (木)
学び場とびら

共創

株式会社AFURIKADOGS / 株式会社アグティ / 株式会社ウエダ本社 / 一般社団法人パースペクティブ / 株式会社ヒューマンフォーラム / nola株式会社 / 一般社団法人暮らしランプ / 株式会社エイリン / 株式会社全笑 / 京藍染師 松崎陸 / OCHICOCCHI株式会社 / 株式会社大興製作所 / 株式会社夢びと / 株式会社NATURAL VALUE / 一般社団法人Gibberish-Lab. / 株式会社しんやさい / 考える”よはく” / 株式会社ジェイ・エス・ピー / 株式会社フラットエージェンシー / 株式会社Encirsos / 洛西紙工株式会社 / NGOうおるん / 一般社団法人e-donuts / 公成建設株式会社 / hinata design. / 社会保険労務士たちばな事務所 / 有限会社匠弘堂 / 株式会社Leimoon / TERA Energy株式会社 / 合同会社GETTAプランニング / ヒーローズコーヒー (HEROES COFFEE) / オープン工業株式会社 / 一般社団法人未来共育学園・若者の夢応援プロジェクト / 株式会社ジャムセッションズ / 一般社団法人アーツシード京都 / 一般社団法人子どもによりよい育ちを支える会(KYS) / 岩本印刷株式会社 / inote+P / コナ / 株式会社ULU / ことぶき



京都市の社会課題

1社でどうこうなる時代じゃない

消費をあおる地域外へ流出するお金 / 8割の学生が京都外へ流出。地域企業のことを知らない、まちづくりに無関心

社会実験の内容

共創が前提の場を作った

1社の枠を超えて、学び合い共創する場づくりが必要。地域内環境を促進し仲間ができる新しい経済圏づくり。共助の財布でユニークな地域企業と繋がり就活の新しい京都モデルをつくる

多様な人が集まるコミュニティスペースが多彩な新規事業開発の場に

コロナ禍で出勤が無くなった税理士事務所で2018年から「学び場とびら」を運営。自社の24時間開放を開始



下京区鶏鉾町480番地オフィスワン四条烏丸13階

R6年度の実験

9/9 (月) 10/10 (木)・11/7 (木) 開催

イベント 新しいお金の巡りを考えてみる 京都祭コインcomo社会実装プロジェクト

未来の祭典期間中、京都各所で新しいお金の巡りを考えてみる、社会に実装するイベントを開催した。地域企業同士が繋がることで様々な事例が生まれた。会社見学、社長副業、社員交流、ワークシェアリング実験などが始まる。若い世代の起業・複業支援(5加盟店)と地域企業の連携も生まれた。

地域企業4社 + 1高校と共創実験 (2023年5月~)

- 実験期間 2025年年末まで
- 参加費 11,000円/月~
- お支払い方法 口座振替/一括払い



主なアウトプット/アウトカム

地域通貨「京都祭コイン」

繋がるお金『共助の財布』—新しい経済エコシステム—として2023年に誕生。地域企業のギフトから始まった社会実験は行政や学校教育へも波及。様々な取り組みが生まれる1年となりました。

○地域企業で原資を出し合い地域に京都祭コインを配布

- 取り組みに共感する20名超の有志(贈り人)が街中で配布を行う
- (株)ジェイ・エス・ピーが管理する市内学生マンション13カ所で配布
- 京都市立日吉ヶ丘高校で高校生たちに学校配布(2025年スタート)
- 循環フェスで、古着や自転車、生ごみ堆肥の回収などで利用。当日利用や学生プレゼンの応援に投げ祭コイン

○ふるさと納税にも選ばれ活用事例が増えた

- ・UniLife(ユニライフ)5棟637室が『祭コインで住める部屋』に。2025年より洛西で祭コイン相場に住める住宅準備中。
- ・2024年7月より京都市のふるさと納税返礼品に。寄付額の2割相当の祭コインを返礼品として取得。寄付額の1割相当は京都の街でソーシャルな人づくり・場づくりに活用されます。

○地域通貨が教材に

- ・京都橋大—3か月間40時間以上取り組む長期インターン授業
- ・立命館大—1ヵ月間、累計60名の大学生を8つのプロジェクトで受入
- ・京都市立日吉ヶ丘高校—祭コイン加盟店になり、高校生が応援し合う取り組みに祭コインを活用。一般社団法人e-donutsと協働。
- ・京都府立すばる高校—祭コインを活用した探究活動をサポート。しんやさい、e-donutsと連携し、九条湯で祭コインマルシェを実施



京信人材バンク「まちごとオフィス」で複業人材と共に事業づくり

学生が始めたコンポストが副業人材の活躍の場になりました。コンポスト活用の可能性を広げています。



まちなかにコミュニティ畑をつくるプロジェクト

とびらに本社を置くJam Sessionzの取り組みが京都市脱炭素ライフスタイル京創ミーティングの取組に選ばれました

まちづくり活動を展開し若者が移住。活動展開に祭りコインを活用



とびらで出会った3名の大学3回生が人口減と高齢化が進む洛西ニュータウンに訪れたことをきっかけに「らくさいっこ」を結成。毎週1回集会所でのカフェ運営と高齢者向けワークシェアリングの場を展開。クラファンは成功しForGoodアワードにノミネート。行政との協働が広がっている。活動展開に祭コインを活用。市営住宅の空き室を活用した若者チャレンジ居住など新しいコミュニティ経済を導入中。

現在進行中

- コミュニティ経済圏で衣食住を整える 例) 部屋・社宅(来春スタート)/コミュニティガーデンや買い取り食材のシェアリング
- ユニークな人材や仕事をシェアする場づくり
- インバウンド向け祭コインメニュー導入 | 京都への旅行時に祭コインコミュニティに関わるモデルづくり
- 「3社同時就職」
- 祭コインコミュニティに会社を開くオープンDAY

代表者から一言



株式会社夢びと
代表取締役 中田俊

人口が増え、大量に作って捨てる時代は終わりました。誰も答えを知らない下り坂の時代を次の世代に引き継いでいくことを考えた時に何をすべきか。立ち止まって、1社の枠を超えて多様な人たちと一緒に実験することが大事だと思い、目先の損得を捨ててずっと実験を続けています。

CHARITY ANIMAL COOKIE

実験の場

9月～
京都市動物園

共催

mumokuteki(株式会社ヒューマンフォーラム) / 株式会社よい根 / ゴリラランド(正面エントランスショップ) / ミライハウス(東エントランスショップ) / 就労継続支援B型事業所「ワークセンターHalle!」 / 就労継続支援B型事業所「テンダーハウス」 / はあと・フレンズ・ストア / 焼肉いちなん



京都市の社会課題

動物福祉と障害者福祉

障害のある人たちが福祉施設にて手工芸品やパン・クッキー等の手仕事を通じて受け取る「工賃」の水準は、多くの施設で月額1万円から2万円程度にとどまり、その向上が課題であるとされています。また、京都市の動物園が、市の財政状況を受けR3年4月頃からエサやその購入費の寄付の受け付けをスタートさせ支援が広がっています。

主体企業

mumokuteki

(株式会社ヒューマンフォーラム | 中京区式部町261)

1997年創業。京都寺町の古着屋からスタートし小売雑貨販売事業を全国で展開。従業員数約450名、全国50店舗を展開。mumokutekiは「いくきるをつくる」をコンセプトに日々の暮らしを豊かにするナチュラルなアイテム(ファッション、雑貨、生活雑貨、食品)を取り揃う。2023年より京都市の指定管理の「はあと・フレンズ・プロジェクト推進事業」を受託運営。

社会実験の内容

2024年9月～

餌提供活動への寄付がスタートしました！

事業連携：

etHical
FoodLoss
ALLiANce

700kg / 月



焼肉いちなん

2023年9月～

動物のエサの寄付と障害福祉を目指したクッキーを商品開発

京都市の指定管理「はあと・フレンズ・プロジェクト推進事業」を運営することで生まれた福祉施設との関係性と、動物園でのイベント出展をでの園内ショップ店長との出会いから動物福祉と障害者福祉を叶えるクッキー商品の企画構想が生まれた。発案から発売まで1年間をかけて企画を練り、販売店、製造施設等と何度も丁寧なコミュニケーションを重ね2023年の未来の祭典期間中に商品化。1年間販売を続けることができた。



売上額 754,834円(税抜)

(2023年9月～2024年8月)

イラスト著作代：22,766円(税抜)3%
動物餌寄付活動支援費：22,766円(税抜)3%
HF利益：30,193円(税抜)4%



アウトプット/アウトカム

イラスト原画展が、動物園で開催されました



園内ショップと就労施設との取引に向けた商品相談会が開催されました



代表者から一言



mumokuteki事業部
統括 今出 貴裕

次は複数の授産施設で連携した製造体制を目指したい

京都市の授産商品のアンテナショップ「はあと・フレンズ・ストア」を運営することで、授産施設の安定的な売上を生み出す商品開発の重要性を体感しました。商品化にあたっては、味だけでなく、利用者が制作をしやすい硬さや大きさを考慮し、様々な製造工程に工夫を行いました。価格設定も含め動物園内ショップの方々と具体的なアドバイスをいただき、本当に多くの方々と商品開発をすることができました。量産に向けて複数の施設での製造を行うことや、同じスキームで京都の新しい観光のお土産開発や二条城などの観光スポットのお土産開発などにも検討していきます。

リリース・キャッチ 循環フェス

実験の場

11月3日（日）
梅小路公園
@下京区

共創 150 社

後援 協賛/出店

京都市、京都市教育委員会、京都市環境保全活動推進協会、京都府、環境省近畿地方環境事務所

ヒューマンフォーラム / コミュニティ・バンク京都 / ジェイ・エス・ビー / KRP / 梅小路まちづくりラボ / 梅小路クリエイティブプラットフォーム / 安田産業 アグティ / エイリン / ワコール / コールマン / エコフロー / アーバンリサーチ / ホテルカンパ / テラエナジー / very50 / さくら / 京都店 / 京都ダイハツ販売株式会社 / 小川製菓株式会社 / 株式会社フラットエージェンシー / KUNKUNLUHO / 京都不動産 / 合同会社なんしん / マガゼン京都 / 信販資本財団 / weaearth / 京都取引 / roots / ISBN8411 / e-donuts / おちこちや / アイディア放物線 / くいしんぼうキャンパ / MIRC / 辻 致室料理士事務所 / 岡村勇毅料理士事務所 / 田邊堂 / clew / きょうべい / 流石紙工株式会社 / オプトテニス (CAFÉ&BAR OBBLU) / spice stand sola / ReWorks / カレーランド 愛-だからだから? / Miyama Mobile Cafe / MJ VINTAGE / 農家移動販売 / でんじろ / フラフカ / ばんぼん / 華とこ / 製菓工房いちなん / 語り / Cafe&Bar Kalkassis / 京都製菓 / sp!ts Burger / (株) 地球Labo / mushroom cafe / くいしんぼうキャンパ / panabun / いっぴく / 京都を歩く / Wai Journey / クラフトワークス / SPINNS / KIRU / ThreeStar / 影-You- / ごみカフェKYOTO / 画楽堂 / MAISHA / biroo kyoto / カフェさらさら / ままのみかた / たち吉 / THE NORTH FACE HELLY HANSEN 藤井大丸店 / Z世代実業家会 / CORNER MIX / Aasha / ヌーベル料理レストラン ナマステ / 株式会社ニッセン / 京都府立洛南高等学校 / HIRO'S STORE / 京大Vinyl Lovers / THE KITCHEN KANRA / VintageCap MISSI / SHIZUKU FARM / MINORI工房 / 稲穂舎 Sora / kotobike (コトバイク) / Symptoms / womo / potential / どこでも種苗 / 合同会社トリスアソシエーツ / 徳島県立伊予高等学校 エシカルクラブ / Technics / Solid Lab Inc. / トンカテラス / arch / 高商商店の軒下青果店 / おちこちや / RINATO / sampai / なくくいこ / LIXHA / どこでも種苗 / N's base / 山崎商店 / 建築事務所 / atelier uuu / Cafe&ClothingS1319 / ヒゲアリアガミ / Garigami 髪型ラボ / 高瀬製菓 / Fushimi Tenno / nabi tabi / vintagecloset / バタゴニア京都 / K-ING COFFEE / 稲穂堂 (サカビ) / アパレル流通テクノロジー / SHIP株式会社 / 京とろふ製菓 / 稲穂舎専門店 ミルミィ / Bleu&select- / ボタクト 履きま by 京都カラス大塚 / JAM CIRCLES / FSHIRUF



京都市の社会課題

アパレル業界と環境負荷

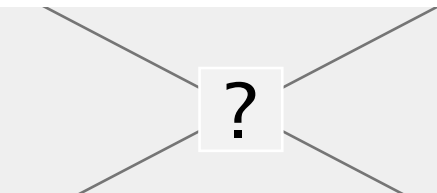
1997年創業。京都寺町の古着屋からスタートし小売雑貨販売事業を全国で展開。従業員数約450名、全国50店舗を展開している。近年は古着の回収の再循環のお祭り「循環フェス」や、古着回収事業「RELEASE⇄CATCH」など、企業や行政とともに古着の循環を推進。人と人のつながりに着目し、新たな持続可能性を模索している。

社会実験の内容

地域内回収 × 地域の事業者 × 循環型

1. 不用品の回収/再利用
2. 温かさのある想い、役割、仕事、居場所をつくる

地域事業者4社による協定を締結し、京都市と連携しスタート



京都市の脱炭素推進に貢献

CO2削減効果
1,200.1t

R5年度 京都環境省大賞受賞



主体企業

株式会社ヒューマンフォーラム

(中京区寺町通蛸薬師上ル式部町261番地)

日本の衣料 廃棄物は年間50万tを超え、その90%以上が焼却・埋め立て処分されています(国民生活センター2021)。適正な生産量のあり方や、環境負荷の低い生産・流通・廃棄のプロセスが求められるほか、古着やリユースが注目されています。

アウトプット/アウトカム

取組1 古着回収ボックスと循環のインフラ構築



*2024年12月時点

京都市を中心に
208カ所設置

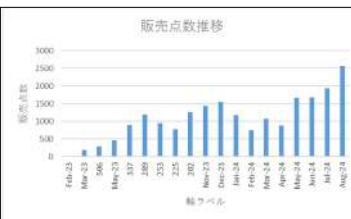
累計循環点数 31,965着着
(販売24,329着/無償7,636着)



京都市内の地域企業が連携し、循環を生み出した



累計売上1820万円。アパレル店で月2500/着の再販流通を創出



設置先

京都信用金庫全店舗 / 京都市立高校全校 / 学生マンションUniLife / FUJII DAIMARU / 株式会社アグティ / 彼方此方屋 / くずはモール / スピンズ / mumokuteki / ドコモショップ 山科駐輪場

販売先も募集中!

回収した古着の出口づくりを一緒にしませんか? オフィスやお店の一角にコーナーを設けることが可能です。ご関心のある事業者様はご連絡ください!

代表者から一言



株式会社ヒューマンフォーラム 取締役 岩崎 仁志

根底に感じている社会問題は「孤独・孤立」です 関わる「人」を増やしていきたい

人と人との関係性が希薄になった近代社会が生んだ不調から、様々な社会課題が生まれていると感じています。アパレル業界は大量生産・大量消費、廃棄物による環境汚染や労働環境問題など、解決すべき多くの課題があります。この課題を1000年を紡いできた京都だからこそ、この課題解決を生活者の消費や産業界一丸となって解決していくことに大きな意義があると考えています。このプロジェクトを通して多種多様なセクターが関わり、今後は段階的に回収できる品目を増やし、そこに“豊かな関係性の質”を地域の中で育むことを通して、持続可能な社会を目指していきます。

取組2 若者と京都から生み出す新しい“循環”のムーブメント



開催数 6回 *2022年7月から年2回
動員数 68,000人
回収量 11.102kg(約44408着)
循環量 11,791着

イベントは出店料で採算化。企業の脱炭素活動PRの機会を創出

学生の関わりは運営や出店、ファッションショーなど多彩に



NEWS!



- ・Instagram登録 5,092人に!
- ・プレイヤーコミュニティ「循環ズ」誕生。LINE登録3389人
- ・全国の1法人2自治体の連携した全国での開催の調整中。サテライト開催へ!

アトツギ縁日

実験の場
11月4日（月・祝）
佛現寺

共催
アトツギ縁日実行委員会（小野寺亮太）/
洛西紙工株式会社 / 有限会社上田製作所 /
株式会社はじめ商会 / 株式会社もり /
うなぎのお富 / 佛現寺



京都市の社会課題

事業承継者不足とアトツギ支援

担い手不足による廃業が全国的な課題として上がる中、地域企業においても、事業を継続したいが後継者が決まっていない企業が全体の1/5というデータ*があります。株の譲渡にはじまる法律や制度の支援はあるものの、後継者育成や承継そのものの支援はまだまだまだ少ないという課題もあります。地域企業が未来にも続いていくためにも、後継者にまつわる支援は重要な課題解決に繋がります。

*参照：第148回京都市中小企業経営動向実態調査結果

主体

アトツギ縁日実行委員会

2024年3月に、アトツギ（若手後継者）の対話・交流の場として「アトツギラボ」を始動。アトツギを「預かった価値を次の世代に託す人」と捉え、アトツギが憧れになる世界観を目指し、互助のコミュニティを育む。アトツギを取り巻く多様なステークホルダーを巻き込み、地域ぐるみでアトツギの挑戦を応援し続ける環境づくり（エコシステム）に向けて活動中。そのアトツギラボでの信頼関係から、地域のためのアクションを起こすべく誕生したのがアトツギ縁日実行委員会。

主なアウトプット/アウトカム

参加者：150名以上 参加したインターンシップ生：6名
共創を育んだアトツギ：6社



・アトツギの仕事を超えた共創体験

⇒気軽に相談ができる関係性が構築され、共に時代を作る連帯感が醸成されました

・学生インターンシップと協力した次代の価値づくり

⇒ヴィーガン対応のぬか漬け体験やものづくりの技術を活かしたおもちゃづくり体験を発明

・地域企業としての地域愛の醸成

⇒地域の子どもたち向けの場づくりから、地域企業としての志の再確認に

代表者から一言



アトツギ縁日実行委員会
小野寺亮太

「なんかよく分からないけど面白そう！」と、共感と信頼が集まったメンバーでスタートした取組でした。ターゲットは？目的は？目標来場者数は？といった、本来発起人が決めるであろうことも、メンバーと一緒に考えながらつくったんですね。そうすると、アトツギやインターン生みんなの試みになっていく体験がありました。アトツギは孤独な生き物で、相談をしたいけど、なかなか同じ立場の人に会えるものではありません。また、「地域のために何かしたいが、きっかけがない」というアトツギもいます。1社だけでは実現し難いことが、アトツギが共創することによって、未来へと繋がる新たな価値が生まれたことが今回の成果だと感じています。嬉しいことに第2弾の開催が決定したり、他にも自社で縁日をしてほしいというお声をいただいたり、次なる展開が見えてきています。活動を続けながら、アトツギが憧れになり、人生の選択肢に入るよう、アトツギのファン（応援者・理解者）を増やし、彼ら彼女らの挑戦を応援していきます。

アトツギ縁日とは

京都で活動する地域企業のアトツギがタッグを組み、未来を担う子どもたちをはじめ、地域の皆さんに楽しんでもらう企画を共創する縁日イベント。地域企業の新たな価値創出を目指し、自社のリソースを活かした出店内容をインターンシップ生と一緒に企画運営を実施しました。



【協賛】株式会社大西常商店・くろしお真珠株式会社・するがや祇園下里・株式会社鶴屋吉信・株式会社友安製作所
株式会社鳴海餅本店・西陣織リニスタグループ・株式会社パレット・株式会社元廣・株式会社ローカルフラッグ
【協力】inote+P・株式会社SOU・株式会社モクジャ

社会実験の内容

アトツギも地域も学生も巻き込んで 楽しい時間を「共創」

出店アトツギとインターン生が連携し出店コンテンツを企画。次代の感性を取り入れながら、アトツギとして何にチャレンジしたいのか、何を届けたいかを考える機会になりました。



Next Action

アトツギ縁日第2弾_2025年3月8日（土）開催決定！



子どもが地域企業の面白さに触れる機会となりました

KYOTO MATERIAL YARD (京都素材倉庫)

実験の場

9月21日(土)～22日(日)
京都芸術センター

共催

京都市 / 公益財団法人京都市芸術文化協会、
株式会社ヒューマンフォーラム / 航海薄明



京都市の社会課題

アートのための資材倉庫と循環

アート活動において、創作のための資材の「流通」と「保管」は重要な課題となっています。個人のアーティストでは、仕入れから保管までの場所やコストの課題は大きく、一定の数をまとめて管理する場所も限られています。また、クリエイティビティを刺激する、人も資材も行き来する、新たな交流の場を開くことでの価値創出も期待されています。

主体

アート×ビジネス共創拠点『器』

京都芸術センターを拠点に、施設の一部をスタートアップやソーシャルビジネスなどの企業・起業家向けのオフィスとして貸し出すほか、京都芸術センターが有する多様な創造力を活かし、アートとビジネスの融合を目指し、交流会や、セミナーやワークショップ、マッチング事業などを実施しています。



KMY 京都素材倉庫 とは (KYOTO MATERIAL YARD)

「マテリアル(素材)」を接点に、あらゆる人のクリエイティビティ(創造性)を刺激しつつ、アーティストと企業あるいは地域コミュニティ等との新たなつながりを作りたい。持続可能な循環型の創造環境の実現に向けて取り組むプロジェクト。

「京都市地域企業未来力会議」において、「アート×ビジネス共創拠点『器』」、「(株)ヒューマンフォーラム」、「航海薄明」が出会い、お互いの課題やビジョンについての対話を重ねて生まれました。



代表者から一言



京都芸術センター副館長
山本麻友美

来力会議での新しい出会いがきっかけで、今まで試したことのないことに挑戦する機会をいただきました。誰かと一緒に何かを進める、作りだす、共有するというアートでも日常的に行われていることを、全く別の文脈で実践できたこと、楽しく、新しい発見の日々でした。素材を循環させる、という単純だけれど、取り組めていなかったことを小さくでも始められたことには大きな意味があると考えています。KMY自体の活動は、現在も継続しています。来年度もまたスペシャルなOPEN DAYを考えており、同じ意思を持つ、札幌や長野との連携も、進めたいと思っています。



Instagramでも発信を行い、集まった素材をアーティストと繋げる活動にも発展

社会実験の内容

アート×素材×循環×映画の『共創』

共催メンバーが大切にしている/したいことを実践するコンテンツを実践する「キックオフイベント」を社会実験として開催しました。

【コンテンツ】

1) 素材倉庫

施設や団体、アーティスト等から提供された資材、素材を自由に持ち帰ることのできるスペースを設置します。併せて、素材・技術等を提供できる企業が出展し、アーティストとのマッチング相談を行いました。

2) 0円マーケット+古着回収

3点までの古着を無料で持ち帰ることのできるリユースマーケットを開催します。併せて、「まだ着られるのにもつたない」そんな衣類の回収も行いました。

3) 野外映画上映「犬王」

野外映画上映を行います。オープニングイベントでは、野外映画上映を行うチーム航海薄明によるトークと、薩摩琵琶奏者・箱崎裕美さんによる琵琶のライブ演奏も行いました。



主なアウトプット/アウトカム

キックオフイベントの結果

イベント参加者
約1600名

古着の回収
約1000着

この他にも、イベントの作り手として、素材倉庫の出展企業や循環にこだわった飲食店の出店、トークセッションの登壇者、ワークショップ講師、演奏者と多種多様な方々が一同に集い、アートとその素材が循環する体験を生み出す作品のような時間となりました。また、集まった素材はアーティストに共有され、次の創作活動へのバトンにつながっています。

その後の展開



キックオフイベントを皮切りに「OPEN DAY」として素材の循環を呼びかける活動がスタート

地域企業と大学生の ちょうどいい 関わり方を考える

実験
の
場

11月15日（金）
京都リサーチパーク
たまり場

共
催

ハナヲタパネル / U35-KYOTO



京都市の社会課題

一元化された就職活動

大学のまち京都と言われるほど、人口の1割に値する14万人が学び通うまち京都。その一方で、卒業後に京都を離れる方も多い現状もあります。ナビサイトに登録し、登録された企業と出会う一元化された就職・採用活動。それだけでは出会えない地域企業と京都の学生さんがどのようにして出会うことができるかは大事な京都経済の課題であるとも言えます。

主体

ハナヲタパネル

京都市内を中心に、プロジェクトデザインのお仕事をしています。地域と若者を緩やかに繋ぐ活動など、京都市における若い世代の人口減少等の地域課題の解決にも取り組んでいます。



社会実験の内容

「ちょうどいい関わり」を、企業人と学生が 一緒に考えるから見えてくる

【当日のプログラム】

- 1) 登壇者による事例紹介
- 2) トークセッション
- 3) ワークショップ
- 4) 自由交流
- 5) クロージング

地域企業と学生のちょうどいい関わり方の事例紹介からスタート。トークセッションでは上下の関係ではなくフラットであることや

「リスペクト」などキーワードが並び、大事なポイントをインプットしました。ワークショップでは、地域企業と学生がいよいよ対話を開始します。ちょうどいいってなんだろう？（地域企業に）会いに行ってもいいですか？など素朴な質問からグッと距離が縮まる対話まで、時間を忘れるほどの和気藹々とした空間でした。



地域企業と大学生の ちょうどいい関わり方を考える

就活の場ではないけれど、自分のキャリアを考え企業と出会う場=ちょうどいい関わり方。

THE就活なガチガチで「作り込まれたわたし」でもなく、ゆるふわなで「プライベートなわたし」でもなく、

ちょうどいいらしさで地域企業と大学生が関われる場について考えるワークショップイベント。

働きたいと思った人が、働きたいと思える会社に出会い、知り・学ぶ機会となることを願い開催しました。

参加者とともに、「ちょうどいい関わり方」を模索しながら、京都の未来について考えてみる試みです。



代表者から一言



ハナヲタパネル
大谷 穂高

企画の始まりは、就活という「枠組み」によって、身構えた上部の関係になることへの違和感が出発点でした。例えば、私がもう1つ代表をしている「Iroiro Kyoto」の活動では、参加している学生は「課外活動」として捉えているんですね。

iroiro kyotoの活動で出会う企業さんのことは「課外活動で出会った社会人」。なので就活モードでない状態でコミュニケーションが取れているんです。ここに違和感へのヒントがあるなと思います、今回の場を社会実験として開かせてもらいました。

実験の中身を見ると、企業さんも就活とは違う枠組みで学生と出会い、中を深めることへの理解をいただけたことが印象的でした。礼節はありながらも、学生さんらしさを持ちながら、出会いたいという本音が聞こえたのが嬉しかったです。こうした寛容さのある意見が出せるのも地域企業らしさだと思いました。

その一方で、参加学生から「大学からは、マナー講座や連絡の取り方の指導など、自分の色を消すような指導を受けることが多いんです。違和感がありながらも、ついそれが正しいと思ってしまうのも課題だと思います」と指摘の声もありました。既存の枠組みに捉われない、就活の意識を持てるような場づくりが次の課題です。

主なアウトプット/ アウトカム

「地域企業の身近さ」から「魅力発見」へ 「今時の感性」から「関わり方のヒント」へ

イベントに参加した
地域企業と大学生
約30名

地域企業と大学生が「ちょうどいい関係」を探究するプロセスから、お互いのことを知り、仲良くなり、この場自体がちょうどいい関係を育む場へとシフトしました。



⇨ イベントの告知は、Facebook、Peatix、noteとSNSの活用とお声がけから、若手からベテラン、スタートアップから老舗企業までが参加するユニークな参加者が集い盛り上がりしました。

